

概要版



# グリーン GREEN INFRA インフラ

## 実践ガイド

令和5年10月 国土交通省総合政策局環境政策課

# グリーンインフラ実践ガイドとは

令和5年9月に公表した「グリーンインフラ推進戦略2023」では、ネイチャーポジティブやカーボンニュートラル、ネットゼロなど、グリーンインフラに関連する社会情勢にも大きな変化を受け、グリーンインフラを一層普及させるとともに、あらゆる場面で実装(ビルトイン)させていくという、新たなフェーズへの移行が求められているとしています。

本ガイドは、グリーンインフラの実装を加速していくため、地方公共団体をはじめとする多様な地域主体に向け、次の点をガイドするものです。

- ①多様な地域主体に向け、グリーンインフラが必要とされる背景やグリーンインフラ実践時の基本的な考え方への理解を深める
- ②地方公共団体による行政計画への位置づけや官民連携・分野横断による事業の実施手法等のプロセスを解りやすく示す

## 実践ガイドの構成

### I 基本編

グリーンインフラにこれから取り組もうとする方々に向け、グリーンインフラの取組・手法や、取組実践に当たっての基本的な考え方を解説します。

### II 実践編

社会資本整備・土地利用に関わる国土交通分野の事業が関わる空間に着目して、事業のプロセス(計画・設計、施工、維持管理、活用)に沿って、様々な事例とともに実装のポイントを解説します。

再開発地区	住宅地・商業地	公園	道路
河川	港湾	海岸	

### III 資料編

「自然環境の活用」「官民連携・分野横断」に関わる各事業分野の参考資料、グリーンインフラの取組に活用可能な国等の支援制度、グリーンインフラ官民連携プラットフォームの取組など、実務に役立つ情報を提供します。

資料編については、本編をご参照ください

我が国では古来、自然の特徴をいかしつつ自然と調和した営みを通じて、地域特有の歴史、生活、文化等を形成してきました。グリーンインフラは、このような我が国の自然共生の在り方を背景としながら、自然を社会資本整備やまちづくり等に資本財(自然資本財)として取り入れ、課題解決の基盤として、その多様な機能を持続的に活用するものです。SDGs(持続可能な開発目標)の実現に向けた意識の高まり、こうした分野への投資の加速や、経済成長だけでなく、自然豊かな環境で健康に暮らすことができる社会を求める価値観の広がりが進む中、多様化する社会課題の解決策として期待が高まっています。

## グリーンインフラの取組が解決に貢献する社会課題と取組例

### 2030年ネイチャーポジティブ\*の実現

#### 生態系の健全性の回復

#### 生息・生育・繁殖地の確保と連結性の向上

- 自然再生・希少種保全・鳥獣保護管理・外来種対策
- 保護地域以外で生物多様性の保全に資する地域(OECM\*)による保全 など

#### 陸域及び海域の利用・管理における生物多様性への負荷軽減

- 森林整備、適切な保全・管理
- 多様な生物の生息・生育・繁殖環境となる水路・畦畔や防風林などの保全
- 都市公園の整備や緑地の保全等、魅力ある水辺の創出による都市における水と緑のネットワーク形成
- 河川・湖沼・湿地における生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出
- 藻場・干潟・サンゴ礁等の保全・再生・創出 など

防災・減災

### 気候変動対策

#### 緩和策

#### 吸収源対策

森林の整備・保全・管理、干潟・藻場の再生(ブルーカーボン) など

#### 熱環境改善

街路樹の育成・管理と緑陰形成 など

#### 適応策

#### 流域治水

調節池や遊水地の整備、湿地の保全・再生など

#### 雨水貯留・浸透

雨庭の設置、雨水の貯留・浸透機能を有する緑地・農地の保全 など

#### 津波・高潮対策

砂浜の回復・維持、防潮林の整備 など

地域社会

環境

### 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり

- 官民連携による公園・広場空間・水辺空間の創出
- 街路樹・民有地接道部の緑化による連続した緑陰の形成
- 公園・広場空間・水辺空間・道路空間の緑を活かしたにぎわい創出 など

### 交流・コミュニティ形成、健康増進

- 住民等との協働による公園・緑地・水辺空間の維持管理・活用
- 低未利用地・空閑地を活用した農園・コミュニティガーデン・遊び場づくりオープンガーデン など

### 自然環境を活かした地域活性化・観光振興

- エコツーリズム
- 環境教育・環境学習
- 有機・減農薬による農作物栽培と生産物のブランド化 など

\* ネイチャーポジティブ:2021年5月「G7 首脳サミットコミュニケ付属文書」にて言及された「自然を回復軌道に乗せるために、2030年までに生物多様性の損失を止めて反転させる」という概念。生物多様性国家戦略2023-2030では、「ネイチャーポジティブ」とは、「生物多様性の損失を止め、反転させる」と定義。金融界では、気候変動と同様、生物多様性の損失がリスクの連鎖を生み、金融の安定に影響すると思われるようになっている。

\* OECM:保護地域以外で生物多様性保全に資する地域。30by30目標を達成するための中心施策の一つ。

# エリアごとに見るグリーンインフラの取組・手法

グリーンインフラには、様々な取組・手法があります。グリーンインフラの実装を進める際には、各種の事業の中で個別の取組を実践するだけでなく、地域の中で様々な取組を連携させて、社会課題の同時解決を図っていくことが重要です。はじめに、自然環境と土地利用の特性が異なる「都市部」「郊外部」「農山漁村部」の3つのエリアに着目して、グリーンインフラの取組・手法例をみていきましょう。

## ① 都市部

高密度かつ複合的な都市的土地利用が主となる都市部においては、緑や水辺の創出を・活用を通じて、気候変動への適応、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかつくり、生物多様性の保全などの社会課題に複合的に応えていくことが考えられます。

### 公園・緑地

クールスポットとなる公園・緑地の創出  
雨庭の設置  
生物生息・生育環境(ビオトープ等)の創出  
住民等との協働による維持管理・活用

### 港湾

生物多様性護岸の設置

### 市街地

### 公園・緑地

### 河川

### 港湾

官民連携による公園・広場空間・水辺空間の創出・維持管理・活用

### 港湾

干潟・藻場の再生

### 市街地

開発地の緑化  
雨庭の設置  
生物生息・生育環境(ビオトープ等)の創出  
屋上緑化・壁面緑化  
屋上緑化貯留

### 公園・緑地

斜面緑地・崖線緑地の保全

### 市街地

### 公園・緑地

### 道路

樹木による緑化  
街路樹の育成・管理

雨庭の設置

緑化空間の活用、住民等との協働による維持管理

街路樹・民有地接道部の緑化による連続した緑陰の形成

### 下水道

暗渠化した水路・せせらぎの再生

### 河川

ワンドの再生  
環境学習



## ② 郊外部

土地利用の密度が比較的lowく、都市的土地利用と自然的土地利用が共存する郊外部では、緑や水辺の保全、管理、再生を通じて、流域治水、生態系ネットワークの構築、交流・コミュニティ形成などにつなげていくことが考えられます。

### 河川

- 魚道の設置
- 砂礫河原の保全・再生
- 旧流路・河跡湖の保全・再生
- 川幅(河床幅)の変化の確保
- 湿地の保全・再生
- ワンドの保全・再生
- 霞堤遊水地の保全
- 水害防備林の保全
- 住民等との協働による水辺空間の維持管理・活用
- 環境学習・環境教育

### 農地

- 水田貯留
- ため池等の治水利用
- 有機・減農薬による農作物栽培と生産物のブランド化
- 農福連携

### 海岸

- 防潮林の整備
- 砂浜の回復・維持
- 砂浜の柔軟な利用
- 環境学習・環境教育



### 公園・緑地

- 大規模な緑地の保全
- 里山の保全・管理
- 環境学習・環境教育

### 河川 公園・緑地

- 調節池や遊水地の整備
- 水辺空間の活用

### 公園・緑地

- 公園・緑地の整備
- 雨庭の設置
- 生物生息・生育環境の保全・創出
- 住民等との協働による維持管理・活用

### 公園・緑地

- 斜面緑地・崖線緑地の保全

### 市街地 公園・緑地

- 雨水の貯留・浸透機能を有する緑地、農地の保全
- 樹林地、屋敷林、社寺林の保全

### 市街地

### 道路

- 道路緑化
- 雨庭の設置
- 住民等との協働による緑の維持管理

### 市街地 公園・緑地

- 低未利用地・空閑地を活用した農園・コミュニティガーデン・遊び場づくり
- オープンガーデン

### ③ 農山漁村部

自然的土地利用が主となる農山漁村部では、自然環境を適切に保全、管理することで、災害に強い地域づくり、産業の振興につなげていくことが考えられます。

#### 森林

森林の整備・保全・管理

#### 農地

棚田の保全・再生

#### 集落

低未利用地・空闲地を活用した  
農園・コミュニティガーデン  
・遊び場づくり

#### 漁港

藻場造成型防波堤の整備  
海水交流施設の整備  
藻場の造成

#### 【エリア全体】

エコツーリズムの展開  
環境学習・環境教育

#### 森林

#### 河川

生物生息・生育地の保全

#### 農業

ため池等の治水利用  
水田貯留  
有機・減農薬による農作物  
栽培と生産物のブランド化

#### 海岸

防潮林の整備  
砂浜の回復・維持



## 7つの風景で見る具体的な取組・手法例

ここからは、まちなかの7つの風景を題材に、より具体的な取組・手法例を紹介します。

(7) 暮らしを守り、地域に  
にぎわいをつくる  
海辺の風景

(1) みどりに彩られた  
都心のメインストリート  
の風景

(2) 公園に溶け込む買い物を  
楽しめる空間の風景



(6) 地域に暮らす人々をつなぐ  
里山・農の風景

(4) 身近なみどりを核に住民が  
交流するまちかどの風景

(5) 自然を身近に感じる水辺の  
風景

(3) 豊かな緑と水辺に囲まれた  
暮らしの風景

## (1) みどりに彩られた都心のメインストリートの風景

< 公有地・民有地のシームレスな歩行空間づくり >



緑地空間の形成に際して、緑陰形成につながる樹木の育成、雨水の貯留・浸透機能を有する植栽帯の設置、在来種や食餌・食草植物の活用などに取り組むことが、ヒートアイランド現象の緩和、局地的大雨時の雨水流出抑制、生物多様性の確保につながります。

また、公有地・民有地が一体となって緑豊かな歩行空間や広場を形成するとともに、それらの空間を人々の憩いや学習の場、ワークスペースなどに活用することで、都市に活動する人々のWell-being\*の向上につながります。

- ① 建築物上の緑化と雨水の一時貯留
- ② 緑化空間を活用した環境学習
- ③ 地域生態系に配慮した在来種や食餌・食草植物の植栽
- ④ 雨庭
- ⑤ 緑陰の下の滞留空間(ベンチ)
- ⑥ エコロジカルネットワーク\* となる連続した植栽
- ⑦ 雨庭の維持管理(魅せる管理)
- ⑧ 植物からの蒸散による冷却効果を活かしたクールスポットの形成
- ⑨ 緑陰の下の滞留空間(オープンカフェ、ワークスペース)
- ⑩ 保水性舗装、透水性舗装による雨水浸透、冷却

\* Well-being:肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること。

\* エコロジカルネットワーク:人と自然の共生を確保していくため、原生的な自然地域等の重要地域を核として、生態的なまとまりを考慮した上で、有機的に繋いだ生態系のネットワーク。ネットワークの形成により、野生生物の生息・生育空間の確保、人と自然とのふれあいの場の提供、地球温暖化防止等多面的な機能が発揮されることが期待される。

## (2) 公園に溶け込む買い物を楽しめる空間の風景

### <公園・商業空間が一体となったシームレスな空間整備>



公園などの公共空間と、商業施設などの民有地を一体として連続的な空間整備を行い、その空間をエリアマネジメント組織など地域のまちづくりに取り組む団体を中心に、官民連携で様々な主体が活用することで、公園の魅力向上、商業施設を含めた地域のにぎわい創出につながります。また、緑化空間、水辺・水景施設を設けることで、暑熱環境の緩和や、水循環の確保、生物多様性の確保などの多様な効果が得られます。

- ① 大木による緑陰形成、植物からの蒸散による冷却
- ② 樹木の維持管理
- ③ 住民参加による草花の管理
- ④ グリーンインフラの機能を説明する案内板
- ⑤ 雨水貯留・浸透機能を持った植栽帯の設置
- ⑥ 在来種を中心とした緑化
- ⑦ 屋上、壁面の緑化
- ⑧ 水景施設による冷却
- ⑨ 効果のモニタリング(地表面温度の測定、人流の解析等)

## (3) 豊かな緑と水辺に囲まれた暮らしの風景

### <住宅地と緑地・水辺が一体となった空間づくりによるエコロジカルネットワーク・風の道の形成>



住宅地と緑地・水辺が一体となった空間づくりにより、エコロジカルネットワーク、風の道が形成され、生物多様性の確保、局所気候の緩和につながります。また、既存の樹木・樹林や在来種を活用した緑化により、雨水の流出抑制や生物生息環境の創出、景観の向上などの機能が発揮され、自然を身近に感じることができる暮らしの場が生まれます。さらに、緑地空間を維持管理、活用する活動を進めることで、居住者や地域住民・活動団体のコミュニティ形成につながります。

- ① 雨水貯留機能を持ち災害時には避難スペースとなる広場
- ② 広場の活用
- ③ 雨水の一時貯留機能を持つ屋上緑化
- ④ バルコニーを使ったガーデニング
- ⑤ 雨水流出抑制機能を持つ修景池
- ⑥ 水辺を活かした自然観察・遊びの場の形成
- ⑦ バイオスウェル\*
- ⑧ 雨水のしみ上がり・植物からの蒸散による冷却
- ⑨ 水路による水のネットワーク形成
- ⑩ 生物生息・生育環境の保全・創出(池、草地など)
- ⑪ 地元産の木材利用(マルチング、デッキ材等)
- ⑫ 既存樹木を保存した景観形成
- ⑬ 地域住民による植栽や広場などの管理活動

\* バイオスウェル: 砂利や植栽などによって雨水を浸透させる施設。緑溝。

## (4) 身近なみどりを核に住民が交流するまちかどの風景

## &lt; 空閑地を活用したコミュニティ広場・ガーデン・菜園の設置 &gt;



住宅地などに発生する空閑地に緑を取り入れ、地域住民が中心となってコミュニティ広場、コミュニティガーデン、菜園などに活用することで、住民の憩いや日常的な交流の場が生まれ、Well-beingの向上につながります。

また、空閑地が緑の空間として維持、活用されることで、雨水の貯留・浸透、生物生息環境の創出、景観の向上などの機能が発揮されます。

- ① 利用者によるイベント開催
- ② 住民参加による施工
- ③ コミュニティガーデンやレイズドベッドの設置
- ④ 地域住民による管理活動(花植え、ハーブ栽培等)
- ⑤ 空き家活用(サロンスペース)
- ⑥ 樹木の保全
- ⑦ コミュニティ広場
- ⑧ コミュニティ菜園
- ⑨ エディブルガーデン\*
- ⑩ 雨水利用(雨水タンク、散水)

\* エディブルガーデン:野菜、ハーブ、果樹など食べられる植物(=エディブル)を主体に植えられた花壇などのこと。

## (5) 自然を身近に感じる水辺の風景

## &lt; 水辺空間の自然再生 &gt;

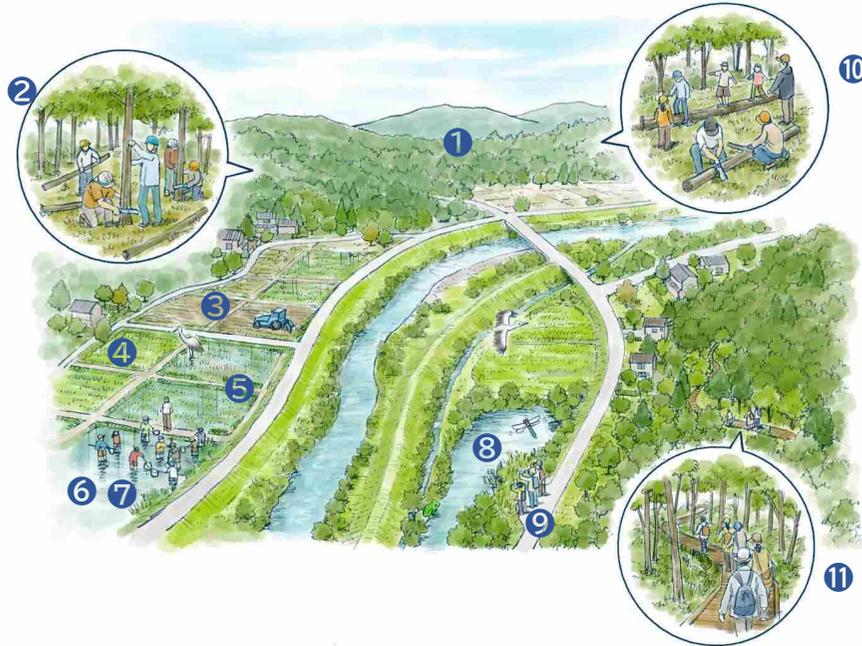


多自然川づくりの考え方を基本に、自然環境が豊かな水辺空間や親水空間の創出を図ることで、生物多様性の向上や潤いある景観の創出が図られます。また、地域住民が計画・施工・維持管理に関わる機会を通じてコミュニティの形成や自然とのふれあい、環境学習などにもつながっていきます。

- ① 滞留空間の形成
- ② 水辺のプロムナードの整備
- ③ 蛇行した流れの創出、石・間伐材等を用いた水制の設置
- ④ 伝統的な工法による護岸整備
- ⑤ 住民参加による施工
- ⑥ 地域住民による管理活動(清掃、除草)
- ⑦ 親水空間の設置
- ⑧ エコトーン形成
- ⑨ 環境学習(子どもたちによる生きもの調査など)

## (6) 地域に暮らす人々をつなぐ里山・農の風景

&lt;里山～農地～河川につながる水のネットワークの保全・再生、里山林の再生・活用&gt;



森林、里山の保全と適切な管理、営農の継続による農業・農地が果たす多面的機能の発揮、水田や湿地環境の保全・再生などを小流域の中で連携して進めることで、健全な水循環の確保、治水機能の向上、エコロジカル・ネットワークの形成につながります。また、里山の保全管理、活用を地域住民、地域の企業、保全活動団体、教育機関などが連携して進めることで、自然環境の機能が維持されるとともに、地域への愛着の醸成、自然体験・環境学習などにつながります。

- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| ① 森林の水源涵養機能の維持              | ⑦ 農業体験・環境学習                            |
| ② 地域住民による里山林の保全管理活動         | ⑧ 湿地環境の再生                              |
| ③ 環境保全型農業                   | ⑨ 里山・湿地環境をフィールドとした生態系・自然再生の調査研究(産官学連携) |
| ④ 営農の継続による農業・農地が果たす多面的機能の発揮 | ⑩ 里山林への広場空間の整備、里山林を使った遊び・環境学習、間伐材の活用   |
| ⑤ 田んぼダムによる洪水被害軽減            | ⑪ 里山林へのフットパス*整備                        |
| ⑥ 休耕田の湿地化                   |  |

\* フットパス:イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径(こみち)【Path】。(出典:日本フットパス協会ウェブサイト)

## (7) 暮らしを守り、地域ににぎわいをつくる海辺の風景

&lt;砂浜と後背地の一体的整備&gt;



湿地、干潟、藻場を保全・再生することで、多様な生物が生息する環境が形成されるとともに、CO<sub>2</sub>を光合成で吸収し炭素を貯留するブルーカーボン生態系の形成につながります。

また、砂浜や防潮林を防災・減災のために活用しつつ、生物の生息・生育、レクリエーションや地域住民の憩いの場としていくことで、地域の活性化につながります。

- ① 藻場造成型防波堤の整備
- ② 干潟・藻場の再生
- ③ 砂浜の回復・維持
- ④ 施設の点検・管理
- ⑤ 地域住民による砂浜清掃などの管理活動
- ⑥ 防潮堤背後のテラス
- ⑦ 防潮林
- ⑧ 地域住民による防潮林への植樹活動、子どもたちの学習活動
- ⑨ 防潮林と一体となった公園整備

## グリーンインフラ実践の基本的な考え方

グリーンインフラの取組は、社会資本整備、土地利用に関わる様々な施策・事業を進める中で、多様な社会課題の解決と目指す地域の姿の実現に向けて自然環境を活用する知恵を絞ることです。また、それを実現するために、関連する様々な施策・事業に関わる地域主体が協力し、官民連携・分野横断によって進めることが重要です。

そのように取組を進めることにより、自然環境そのものが保全又は拡充されるとともに、社会資本整備等の効果が自然環境の働きによって拡充されます。さらに、地域の魅力向上や人々の暮らしの豊かさ(Well-being)などに繋がる付加価値が生み出されることを期待するものです。

### グリーンインフラを実践する際に求められること

目指す地域の姿の実現に向け  
自然環境を活用する  
知恵を絞ること



官民連携・分野横断  
により  
取り組むこと

#### 社会資本整備、土地利用に関わる 様々な取組

- 都市整備・住宅、公園、道路、河川、港湾、海岸等の計画・設計・施工・管理
- 市民協働、環境教育、その他自然環境を活かす取組



### グリーンインフラによって 期待される効果

- ① 自然環境を保全又は拡充する
- ② 地域特有の歴史、生活、文化等を踏まえ、社会資本整備等の効果を自然環境の働きによって拡充する
- ③ 暮らしの豊かさ(Well-being)などに繋がる付加価値を生み出す

## 官民連携・分野横断のポイント

グリーンインフラの取組は、社会資本整備、土地利用に関わる主体のみならず、市民協働、環境教育、産業振興、観光など、自然環境の保全やその機能を活用する取組に関わる地域主体が、官民連携・分野横断によって進めていくことが重要です。

### 官民連携・分野横断のポイント

ポイント1	地域の将来ビジョンの明確化 (主要な計画への位置づけと事業レベルでのビジョンの具体化)	取組を進める際には、社会資本整備や土地利用に関わる事業の相互連携、自然環境の活用に向けた地域との協働、環境、教育、福祉など、様々な分野の施策との連携や広域で連携が必要となることから、関連する行政計画へのグリーンインフラに関わる取組・事業の位置付けや、グリーンインフラを通じて実現する将来ビジョン(共通の目標)の可視化を行う。
ポイント2	様々な地域主体の創意工夫を活かす 連携・推進体制の構築	社会課題とその解決に向けた取組の内容に応じた連携・推進体制をつくり、多様な地域主体のネットワークを構築することで、多様な地域主体の参画により取組を推進する。
ポイント3	効果の可視化	行政による施策・事業の評価、産学官民の多様な地域主体が参画する際の目標と成果の共有、資金調達を行う際の投資効果の判断材料の獲得などのため、地域にもたらされる様々な効果を適切に評価、可視化する。
ポイント4	柔軟な資金調達・官民連携による事業の促進	地方公共団体の財政支出だけでなく、金融手法を活用した柔軟な資金調達、官民連携による事業の促進により取組を推進する。
ポイント5	持続的な維持管理・マネジメント	グリーンインフラがその効果を持続的に発揮し、暮らしの豊かさにつながる付加価値を広げていくため、適切な維持管理、効果のモニタリング、その結果のフィードバックなどを持続的に行う体制を整える。

実践編では、これまでのグリーンインフラに関する取組(事例)を基に、グリーンインフラを実装する際のポイントを整理しました。

グリーンインフラの実装が期待される空間としては、森林や農地も含めて幅広い空間が対象となりますが、本ガイドでは主に国土交通省が所管する分野の事業に関わる空間として、再開発地区、住宅地・商業地、公園、道路、河川、港湾、海岸等におけるポイントを整理しました。

◆ 実践ガイド本編では、これまでのグリーンインフラに関する取組(事例)を基に、グリーンインフラを実装する際のプロセス(計画・設計、施工、維持管理、活用)に注目して、実装するためのポイントをより詳細に示しています。  
また、グリーンインフラに関連する制度や事例集等の資料など、グリーンインフラの実装にあたって参考となる内容を併せて紹介しています。

対象空間	グリーンインフラ実践の基本的な考え方
再開発地区	快適な滞在空間の創出
住宅地・商業地	良好な生活空間の創出
公園	多面的な機能を有する公園の整備・活用
道路	植栽帯・街路樹の整備・活用
河川	治水と環境が両立した河道管理
	遊水地・調節池の整備・活用
	水辺空間の整備・活用
港湾	港湾施設の整備・港湾区域の活用
海岸	干潟・砂浜・海岸防災林の保全・活用

※上記の対象空間は、主にグリーンインフラに関わる場所として想定される空間を示したものであり、それぞれの空間で紹介する事例には下水道事業としての雨水貯留・浸透施設の整備や都市農地の活用等の取組・手法も含まれる。

再開発地区 快適な滞在空間の創出【基本的な考え方】

グリーンインフラ実践の基本的な考え方

- ・都市の再開発地区における緑地空間などの自然環境の機能を活かした空間は、施設の利用者や周辺住民等に快適な滞在空間を提供する。
- ・また、局地的豪雨やヒートアイランド現象、生物多様性の減少等、都市部の環境問題の解決にも貢献する緑地空間等を創出することがポイントとなる。
- ・さらに、緑地空間等を環境学習の場やレクリエーションの場、憩いの場として活用することで、人が自然に触れる機会を創出することができ、利用者のWell-beingの向上に寄与することも期待される。

	グリーンインフラ実装のポイント	主な事例
計画・設計	①緑の機能を活用するコンセプトの検討	● コモレ四谷 ● 東京ミッドタウン日比谷
	②快適な緑地空間の創出	● ThinkPark Forest ● 虎ノ門ヒルズ
	③緑地を活用したオープンスペースの創出	● 小田急線上部利用施設等
	④ヒートアイランド現象の緩和	● 品川シーズンテラス
施工	⑤生物多様性に配慮した整備	● アークヒルズ仙石山森タワー ● 東京ガーデンテラス紀尾井町
	⑥雨水貯留・浸透機能の向上	● 三井住友海上駿河台ビル・駿河台新館 ● 東京ポートシティ竹芝
維持管理	⑦生長を考慮した樹種の選定	● 赤坂インターシティAIR
活用	⑧自然体験活動の実施	● ウォーターズ竹芝 竹芝干潟 ● フジクラ 木場千年の森

快適な緑地空間の創出 ～ThinkPark Forest～



【出典】国土交通省ウェブサイト「企業のみどりの保全・創出に関する取組み」  
<https://www.mlit.go.jp/toshi/park/s1/cases/js0058.html>

ヒートアイランド現象の緩和 ～品川シーズンテラス～



【出典】グリーンインフラ事例集(令和5年3月、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム)

**住宅地・商業地 良好な生活空間の創出【基本的な考え方】**

**グリーンインフラ実践の基本的な考え方**

- ・緑地空間等を整備することによって、良好な住環境を提供する。
- ・また、在来種や既存の樹木を活用することで、地区一体となった景観形成やエコロジカル・ネットワークの形成を図り、周辺の自然環境との調和を図ることができる。
- ・雨水の流出抑制や局所気候の緩和、景観の向上等、緑のもつ多様な機能を発揮させることで、生活環境の向上につながる。
- ・居住者や地域住民・活動団体と連携した緑地空間の維持管理・活用を図ることで、地域コミュニティ形成にもつながる。

	グリーンインフラ実装のポイント	主な事例
計画・設計	①快適な緑地空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多摩平の森</li> <li>● リボンシティ</li> </ul>
	②緑地を活用したオープンスペースの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 南町田グランベリーパーク</li> <li>● にぎわいの森</li> </ul>
	③緑のネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シャレール荻窪</li> <li>● 江古田の杜</li> </ul>
施工	④生物多様性に配慮した植栽	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラウドシティ武蔵野三鷹</li> <li>● アーベインビオ川崎</li> </ul>
	⑤雨水貯留・浸透機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サンヴァリエ桜堤</li> <li>● コンフォール松原</li> </ul>
維持管理	⑥維持管理活動によるコミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 香里団地</li> <li>● デュオヒルズつくばセンチュリー</li> </ul>
活用	⑦低未利用空間の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カナドコロ</li> <li>● カシニワ</li> </ul>
	⑧自然体験活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 八王子みなみ野シティ</li> <li>● 江南団地</li> </ul>

**緑地を活用したオープンスペースの創出  
～にぎわいの森～**



提供:いなバ市

**維持管理活動によるコミュニティ形成  
～デュオヒルズつくばセンチュリー～**



提供:株式会社フージャースコーポレーション

**低未利用空間の活用  
～カナドコロ～**



【出典】グリーンインフラ事例集(令和5年3月、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム)

## 公園 多面的な機能を有する公園の整備・活用【基本的な考え方】

### グリーンインフラ実践の基本的な考え方

- ・公園は、地域の貴重なオープンスペースや緑地空間として機能している。
- ・計画・設計段階から地域住民や民間事業者など、多様な主体と連携しながら、公園の活用方策や維持管理・運営の方法を検討することで、地域のにぎわいの拠点としての機能など、公園の有する多面的な機能を発揮させることができる。
- ・さらに、周辺の環境に配慮した設計や防災や生物多様性の保全などの地域課題の解決につながる整備を行うことによって、価値を高めることが期待される。
- ・Park-PFI制度や指定管理者制度を活用することによって、柔軟な公園の活用や維持管理活動の継続的な実施につながる場合もある。

	グリーンインフラ実装のポイント	主な事例
計画・設計	①住民参加による計画づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 泉佐野丘陵緑地</li> <li>● 安満遺跡公園</li> </ul>
	②周辺空間の一体的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 富岩運河環水公園</li> <li>● 葛西臨海公園</li> </ul>
	③民間事業者と連携した事業スキーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 佐世保中央公園</li> <li>● こすぎコアパーク</li> </ul>
施工	④生物多様性に配慮した公園の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新宿中央公園</li> <li>● 尼崎の森中央公園</li> </ul>
	⑤雨水貯留・浸透機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 泥亀公園</li> <li>● 美里なかぼる公園</li> </ul>
	⑥多世代が利用しやすい空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 花園公園</li> </ul>
維持管理	⑦地域の連携による維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 千葉市パークマネジメント</li> <li>● 古河公方公園</li> </ul>
活用	⑧運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>● としまみどりの防災公園(IKE・SUNPARK)</li> <li>● 狭山丘陵</li> <li>● 西東京いこいの森公園及び周辺の市立公園</li> </ul>

### 住民参加による計画づくり ～泉佐野丘陵緑地～



【出典】大阪府営泉佐野丘陵緑地ウェブサイト <http://izumisano-kyuryo.jp/>

### 雨水貯留・浸透機能の向上 ～泥亀公園～



提供：横浜市

### 運営体制の構築 ～狭山丘陵～



【出典】特定非営利活動法人NPObirthウェブサイト <https://www.npo-birth.org/>

## 道路 植栽帯・街路樹の整備・活用【基本的な考え方】

### グリーンインフラ実践の基本的な考え方

- ・道路空間に植栽帯や街路樹を整備することによって、歩行者空間の快適性向上や賑わいの創出につながり、地域の魅力が向上する。
- ・都市の生物多様性の保全や雨水浸透機能の向上など、道路空間の植栽帯・街路樹を活用することで、地域の課題解決につながる取組とすることができる。
- ・維持管理・活用にあたっては、地域と連携した取組の実施や運営体制を構築することが望ましい。

#### 地域と連携した計画づくり ～定禅寺通～



【出典】定禅寺通エリアまちづくりビジョン2023(令和4年3月、定禅寺通活性化検討会)

	グリーンインフラ実装のポイント	主な事例
計画・設計	①緑地を活用した空間デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福山市本通・船町商店街</li> <li>● 朝霞市シンボルロード</li> </ul>
	②道路空間の再編による歩行者空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 創成川通</li> <li>● 日本大通り</li> </ul>
	③地域と連携した計画づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定禅寺通</li> </ul>
施工	④道路空間を活用した緑地の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● おおはし里の社</li> <li>● あきる野インターチェンジ</li> </ul>
	⑤雨水貯留・浸透機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北海道札幌市</li> <li>● 京都府京都市</li> </ul>
	⑥生物多様性に配慮した植栽帯・街路樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京都中央区</li> <li>● 東京都港区</li> </ul>
維持管理	⑦地域と連携した維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 花園町通り</li> </ul>
	⑧維持管理による緑の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛知県名古屋市</li> <li>● 宮城県仙台市</li> </ul>
活用	⑨道路空間の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Marunouchi Street Park</li> <li>● 松本市まちなかグリーンインフラアクションプラン</li> </ul>
	⑩運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会</li> <li>● OMIYA STREET PLANTS PROJECT</li> </ul>

# 河川 治水と環境が両立した河道管理【基本的な考え方】

## グリーンインフラ実践の基本的な考え方

- ・全ての河川整備において「多自然川づくり」の考え方を基本に、自然環境に配慮した事業を行うことが求められる。
- ・河道掘削などの治水事業においても、施工段階での工夫によって、湿地の創出などの自然環境の保全に寄与する事業とすることができる。
- ・また、民間事業者等と連携した河川空間の活用や河道内樹木のバイオマス利用など、資源循環・経済循環の視点での可能性を検討し、持続的な維持管理・活用を図ることが望ましい。

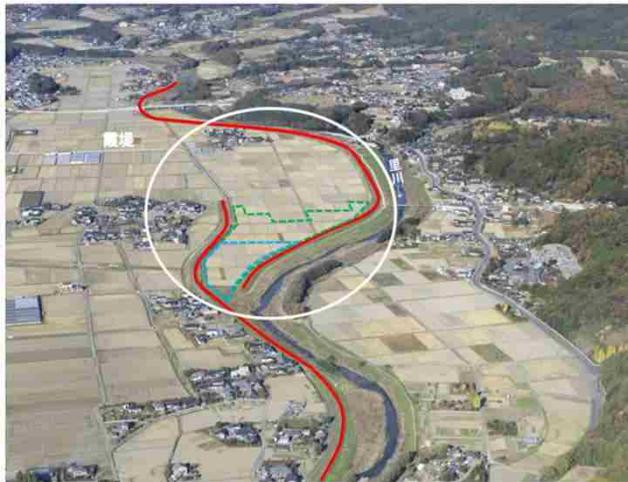
グリーンインフラ実装のポイント	主な事例	
計画・設計	①多自然川づくり	● 武庫川水系武庫川
	②生態系ネットワークの形成	● 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会 ● 吉野川流域生態系ネットワーク検討
	③伝統的治水工法の活用	● 吉野川流域 水害防備林 ● 久慈川流域 霞堤
施工	④自然環境に配慮した施工	● 山国川ルール ● 日野川片粕地区
維持管理	⑤河道内樹木の管理	● 天竜川流域 伐採木の無料配布 ● 最上川官民連携プラットフォーム
活用	⑥河川空間の活用	● 豊岡市立加陽水辺公園

### 多自然川づくり ～武庫川水系武庫川～



【出典】多自然川づくり優良事例集「多自然川づくりのすがた」(平成30年3月、国土交通省水管理・保全局河川環境課)

### 伝統的治水工法の活用 ～霞堤 久慈川流域～



▲ 霞堤整備事例 久慈川水系里川【茨城県】

【出典】久慈川緊急治水対策プロジェクト【最終とりまとめ】(令和2年1月、久慈川・那珂川流域における減災対策協議会)

### 河川空間の活用～豊岡市立加陽水辺公園～



提供:豊岡市

# 河川 遊水地・調節池の整備・活用【基本的な考え方】

## グリーンインフラ実践の基本的な考え方

- ・水災害の激甚化・頻発化等を踏まえた流域治水対策として、遊水地・調節池の検討・整備が進められている。
- ・必要な治水容量を確保した上で、平時にも生物多様性の保全や環境教育の場としての機能が発揮されるように、掘削形状の検討や維持管理・活用を担う組織の設立等を行うことがポイントとなる。
- ・また、ツアーの実施や関連商品の開発・販売など、社会・経済的な価値ももたらす場として活用することが期待される。

	グリーンインフラ実装のポイント	主な事例
計画・設計	①住民参加による計画づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国分川調節池</li> <li>● 大柏川第一調節池緑地</li> </ul>
	②公園事業と連携した計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 深北緑地:寝屋川治水緑地</li> <li>● 鶴見川多目的遊水地</li> </ul>
	③空間的なゾーニングの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 境川遊水地公園</li> </ul>
施工	④水域・湿地環境の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 渡良瀬遊水地第2調節池</li> </ul>
維持管理	⑤植生の管理・湿地環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 麻機遊水地</li> <li>● 渡良瀬遊水地第2調節池</li> </ul>
活用	⑥運営組織の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 麻機遊水地</li> </ul>
	⑦社会・経済的な取組への発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 舞鶴遊水地</li> </ul>

### 公園事業と連携した計画 ～深北緑地:寝屋川治水緑地～



提供:大阪府

### 運営組織の構築 ～麻機遊水地～



【出典】麻機遊水地保全活用推進協議会ウェブサイト  
<https://asabata.org/>

# 河川 水辺空間の整備・活用【基本的な考え方】

## グリーンインフラ実践の基本的な考え方

- ・地域住民・市民団体等による河川空間の利用や民間企業と連携した店舗の出店、イベントの実施など、地域の関係者の連携によって、河川空間を活用し、地域に社会・経済的な価値をもたらす取組とすることができる。
- ・計画段階での住民参加や河川空間へのアクセス性を向上するための施工など、ハード・ソフトの両面で計画・設計・施工段階から河川空間の活用を促すための工夫を行うことが重要である。

	グリーンインフラ実装のポイント	主な事例
計画・設計	①住民参加による計画づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 香流川整備計画</li> <li>● 堀川まちづくり構想</li> </ul>
	②新たな親水空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中堀川プロムナード事業</li> <li>● 上西郷川</li> </ul>
施工	③水辺空間へのアクセス性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遠賀川・直方の水辺</li> <li>● 仙川リメイク</li> </ul>
維持管理	④維持管理活動によるコミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上西郷川</li> <li>● 善福寺公園 遅野井川親水施設</li> </ul>
活用	⑤民間事業者による河川空間の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 信濃川やすらぎ堤</li> </ul>
	⑥活動の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ミズベリング三条</li> <li>● 芦田川緑地かわまち広場</li> </ul>

### 新たな親水空間の創出 ～中堀川プロムナード事業～



【出典】グリーンインフラ事例集(令和5年3月、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム)

### 民間事業者による河川空間の活用 ～信濃川やすらぎ堤～



【出典】河川空間のオープン化活用事例集(令和5年8月、国土交通省水管理・国土保全局)

## 港湾 港湾施設の整備・港湾区域の活用【基本的な考え方】

### グリーンインフラ実践の基本的な考え方

- ・港湾構造物の整備とあわせて、生物共生型護岸の整備や浚渫土砂等を活用した藻場環境の形成などを行うことによって、新たな生物生息場を創出することができる。
- ・また、創出した環境の活用にあたっては、地域野市民団体等と連携した自然体験活動の実施や港湾区域・港湾緑地オープンスペースとして活用するための事業の実施が重要である。
- ・さらに、海草や海藻等による二酸化炭素の吸収量をクレジット化する「ブルーカーボン」が注目されており、クレジット制度を活用することで環境保全活動等の資金確保につながることも期待される。

	グリーンインフラ実装のポイント	主な事例
施工	①生物の生息・生育の場の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜港新本牧ふ頭</li> <li>● 北海道釧路港</li> </ul>
	②港湾緑地の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 横浜港みなとみらい21地区</li> <li>● 堺泉北港なぎさ公園</li> </ul>
活用	③自然体験活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 堺泉北港</li> <li>● 潮彩の渚</li> </ul>
	④カーボンクレジット制度の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ジャパンブルーエコノミー技術研究組合</li> <li>● 海のゆりかご再生活動</li> </ul>

### 生物の生息・生育の場の創出 ～横浜港新本牧ふ頭～



- |   |                       |
|---|-----------------------|
| ① | 護岸内部に自然石を設置し、岩礫性藻場を形成 |
| ② | 階段状スリットによる多様な生物生息場の形成 |
| ③ | 護岸マウンド水深の嵩上げ(貧酸素帯の回避) |
| ④ | 環境に配慮したブロックの設置        |
| ⑤ | 水際線緑地の創造・市民への開放       |

提供:横浜市

### 参考 J-ブルークレジット制度

- ・ジャパンブルーエコノミー技術研究組合(JBE)では、ブルーカーボン生態系の二酸化炭素吸収源としての役割や、その他の沿岸域・海洋における気候変動緩和と気候変動適応へ向けた取組みを加速することを目的に、新しいカーボンクレジットとしての「J-ブルークレジット」制度を創設。
- ・「J-ブルークレジット」は、JBEから独立した第三者委員会による審査・意見を経て、JBEが認証・発行・管理する独自のクレジットである。
- ・JBEのウェブサイトにおいて、公募対象となるプロジェクトを掲載し、購入希望者の公募を行っている。

# 海岸 干潟・砂浜・海岸防災林の保全・活用【基本的な考え方】

## グリーンインフラ実践の基本的な考え方

- ・干潟や砂浜は、防災・減災や生物多様性の保全、レクリエーションの場など様々な機能を有しており、干潟・砂浜を保全・再生するための計画策定や施工が必要となる。
- ・防潮堤等の海岸保全施設の計画・整備にあたっては、地域住民等が参加する機会を設けることで、砂浜や海岸防災林等の自然環境を活用した取組の可能性を検討することが望ましい。
- ・また、海岸防災林の保全・活用のためには維持管理が必要であり、地域と連携した取組を行うことが望ましい。

	グリーンインフラ実装のポイント	主な事例
計画・設計	①住民参加による計画づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災緑地ワークショップ</li> <li>● 大谷海岸の砂浜再生まちづくり事業</li> </ul>
	②新たな干潟の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 徳山下松港大島干潟</li> <li>● 葛西海浜公園</li> </ul>
施工	③海岸防災林の再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ふじのくに森の防潮堤づくり</li> <li>● 仙台ふるさとの杜再生プロジェクト</li> </ul>
維持管理	④海岸保全施設としての指定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 石川海岸(松任工区)</li> </ul>
	⑤地域と連携した維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 虹の松原</li> <li>● 蒲生干潟自然再生協議会</li> </ul>
活用	⑥海岸の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 皆生海岸</li> </ul>

### 住民参加による計画づくり ～大谷海岸の砂浜再生まちづくり事業～



提供:大谷里海づくり検討委員会

### 海岸防災林の再生 ～仙台ふるさとの杜再生プロジェクト～

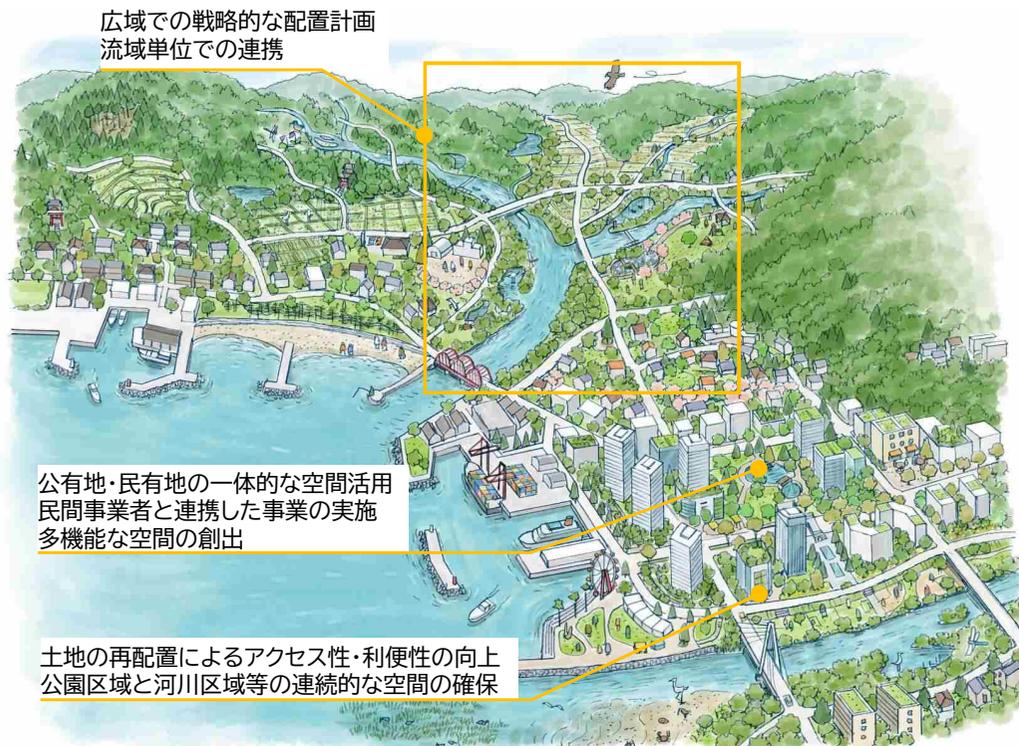


【出典】グリーンインフラ事例集(令和5年3月、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム)

## ① 取組・手法の組み合わせによる機能の向上

グリーンインフラの実装を図ろうとする地域の特性に応じて、空間的に取組・手法を組み合わせることが重要です。

グリーンインフラによるネットワークの構築や流域スケールでの水循環を考慮した配置の検討など、様々な側面で面的な効果が得られる取組を考えることがポイントとなります。



グリーンインフラの取組・手法の空間的な連携

## ② 重要な政策課題に対する積極的な活用

重要な政策課題への対応として、グリーンインフラを積極的に活用することが望まれます。

### 近年、重要な政策課題

#### ネイチャー ポジティブ の実現

自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる「2030年ネイチャーポジティブ」の実現や、ビジネスセクターにおける生物多様性への関心の高まりといった世界的な潮流の中で、グリーンインフラは、生物多様性・土壌・水などの自然資本を損なわず、むしろ回復させるネイチャーポジティブの実現に貢献する取組としても注目されます。

#### カーボン ニュートラル の実現

緑や土壌はCO<sub>2</sub>を吸収・固定することから、カーボンニュートラルの実現に貢献する取組として、森林の整備や緑地の創出、木造建築物の推進、バイオマスの利活用等による温室効果ガスの吸収源対策が注目されています。

#### SDGsの実現や Well-being の向上

グリーンインフラは、社会資本整備やまちづくり等に自然を取り入れることで、自然が有する、心身両面での健康への効果、景観形成や文化醸成、地域活動や教育面での効果を引き出すことができ、Well-beingの向上、地域の賑わいの創出、働く人々等の生産性の向上、コミュニティの再生、ひいてはSDGsや地方創生の実現に資する取組として期待されます。

### <掲載した画像等の利用について>

本資料のコンテンツを利用する際は出典を記載してください。コンテンツを編集・加工等して利用する場合は、上記出典とは別に、編集・加工等を行ったことを記載してください。

掲載した事例の写真、図表の中には、第三者(出典に記載した資料の作成者、各事例を所管する地方公共団体、事業者等)が著作権その他の権利を有している場合があります。利用する場合は、利用者の責任で、当該第三者から利用の許諾を得てください。

## グリーンインフラ実践ガイド - 概要版 -

---

令和5年10月 発行

国土交通省総合政策局環境政策課

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3

電話:03-5253-8111(内線24-312)

【国土交通省 グリーンインフラポータルサイト】

[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei\\_environment\\_tk\\_000015.html](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000015.html)